

平成 24 年 5 月 1 日

H23 年度後期 学部等全体評価（共通教育センター）

姜 奉植

授業名：全学共通科目 全体

まずは、問題点を取り上げることとする。

問い 1 番「この授業にもともと強い関心がありましたか」に対する回答として「そう思わない」側への集計が 41.2%に上っており、これは高い数値だなど問題点を感じる。

続いて、問い 4 番「この授業に真剣な態度で参加できましたか」の回答に「そう思わない」が 32.2%で、問い 5 番「この授業の予習・復習等に積極的に取り組みましたか」の回答に「そう思わない」は 40.6%と、これまた両方とも高い数値を示している。

これらの原因としては 2 つが考えられる。1 つは、「そもそも勉強したくない」勉強嫌いの学生が多くを占めているか、それとも、学生たちの関心を引く全学共通科目がさほど多くなかったかのいずれかであると考えられる。筆者は、本学の共通科目の豊富さから見て原因は、後者よりはむしろ前者によるものではないかと憂慮をする。その一因として昨今の学生たちの学力低下が挙げられると思うが、この深刻さが上記の問いに如実に反映されているのではないかと危惧するのである。

今後は、この問題点を全学的な観点からどう改善していくのかが大きな課題と考える。

一方、評価される点としては、問い 11 番「あなたはこの授業の到達目標を達成できましたか」が 74.3%で、問い 12 番「この授業で得たものは多かったと思いますか」が 79.5%で、問い 13 番「総合的に考えてこの授業に満足できましたか」が 80.6%と、先述の回答（問い 1・4・5 番）に比べて肯定的な回答が多かったことである。

これは、先述の否定的な回答をした多くの学生が、結果的には肯定的な学習成果を挙げていることを表しており、この点は、教員の教授能力と学生たちの勉学能力の両方が向上していることを反映しているデータではないかと判断する。